

国語（言語技術）科 特任教諭採用募集要項 別添資料

1. 言語技術とは

言語技術とは、思考を論理的に組み立て、相手にわかりやすく説明する技術のことを指し、主に西洋で行われてきた Language Arts というカリキュラムをつくば言語技術教育研究所の三森ゆりか氏が中心となり日本に持ち込んだものです。

本校では、言語技術科という教科を独自に設定し、「ランゲージアワー」という授業名で中学1・2年生に隔週2時間続きの授業を行っています。この授業の目的は、生徒の分析力・論理的思考力・表現力を育むことで、様々な背景を持つ人と協力して新たな物事を生み出して社会に貢献する人材を育成することです。

「ランゲージアワー」の授業では、一つの答えに生徒を誘導するのではなく、生徒が思考した過程を尊重し、生徒と教員、または、生徒同士が相互にコミュニケーションを取ることを重視します。

●実施例

<p>■ 問答ゲーム</p> <p>「結論を言ってから理由を説明する」という論理的な形式を身につけるためのゲーム。伝わりやすい表現形式と根拠に基づいて判断する習慣を育みます。</p>	<p>■ 再話</p> <p>教員が読み上げた物語を、聞きながらとったメモを頼りに書き起こします。要点をとらえる力、論理的な文章構成力を養います。</p>
<p>■ 情報伝達</p> <p>たくさんある情報を、相手にわかりやすく伝えるための方法を検討していきます。情報を分類・整理する力、全体から部分へという伝わりやすい説明の仕方を学びます。</p>	<p>■ 絵の分析</p> <p>何を描いた絵か、人物が何をしているかなど、描かれた内容を根拠に1枚の絵を深く分析します。論理的な推論であれば、答えは無数。観察力や分析力を磨きます。</p>

※「ランゲージアワー」はつくば言語技術教育研究所の指導に基づいて実施しています。

2. 教科としての業務内容

対象学年：中学1・2年生

授業形態：分割授業（教員1名と生徒約20名）

生徒の数を限定することで一人一人の思考や表現の活動量を増やします。

評価方法：毎回の授業終わりに実施する作文

授業を担当している生徒の作文は次回授業までに採点して返却します。教科の性格上、定期考査は実施しません。

打ち合わせ：各学年の授業前と後に、授業内容の事前確認と振り返りをするための教員打ち合わせの時間を設けています。この打ち合わせを通じて、授業前に抱いていた不安を解消したり、授業で感じ取った生徒の反応を次回の授業に反映させたりと、教材・教授法の改善に努めています。

3. 国語科教員として向上が期待できるスキル

ランゲージアワーは本校のみの特別な教科ではありますが、国語科教員として、以下のような効果が期待できます。

- ・客観的な読解指導力の向上

→国語は生徒からすると読書量やセンスの教科と取られてしまうことが少なくありません。しかし、言語技術の観点を持つことで、どのような視点や手法で対象を分析し、どのような道筋で論理を組み立て、根拠を集めるかということにより自覚的になり、客観的な読解指導をすることができると考えます。

- ・自らの意見を持たせる読解指導力の向上

→近年ではアクティブラーニング型の授業が主流となり、授業の中で生徒に自らの考えを構築し、表明する力を伸ばすことが重要となっています。言語技術では、根拠に基づいて発言させる指導を徹底しており、生徒の発言から深い議論を導き出す方法を学べます。

- ・表現力の指導力向上

→生徒のプレゼンテーション能力を向上させることも今後の教育現場では重要となります。言語技術では、パラグラフ・ライティングをベースに、伝えたいことが誤解なく相手に伝わる文章構成の方法を指導します。この指導は、大学入試における小論文や志望理由書の指導にもおいても非常に有益です。

以 上